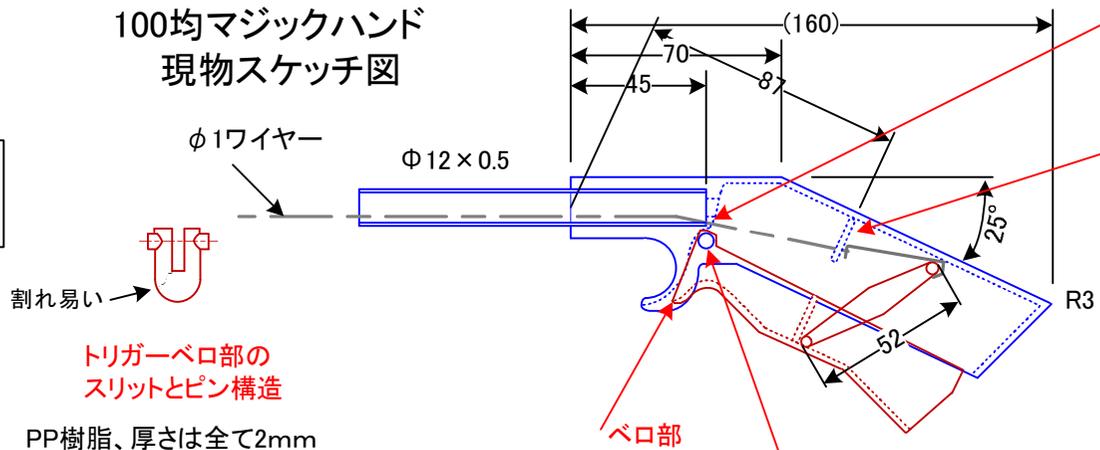


100均マジックハンド 現物スケッチ図

ハサミ爪部
図示略

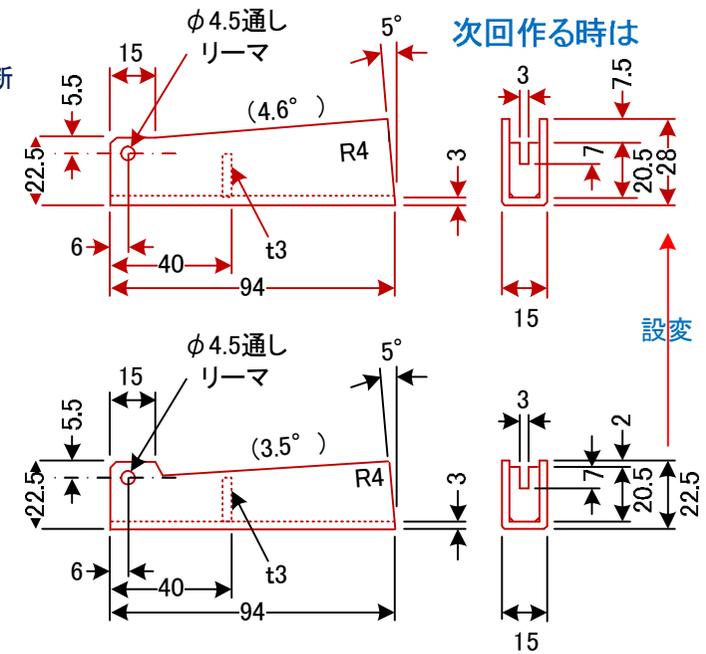
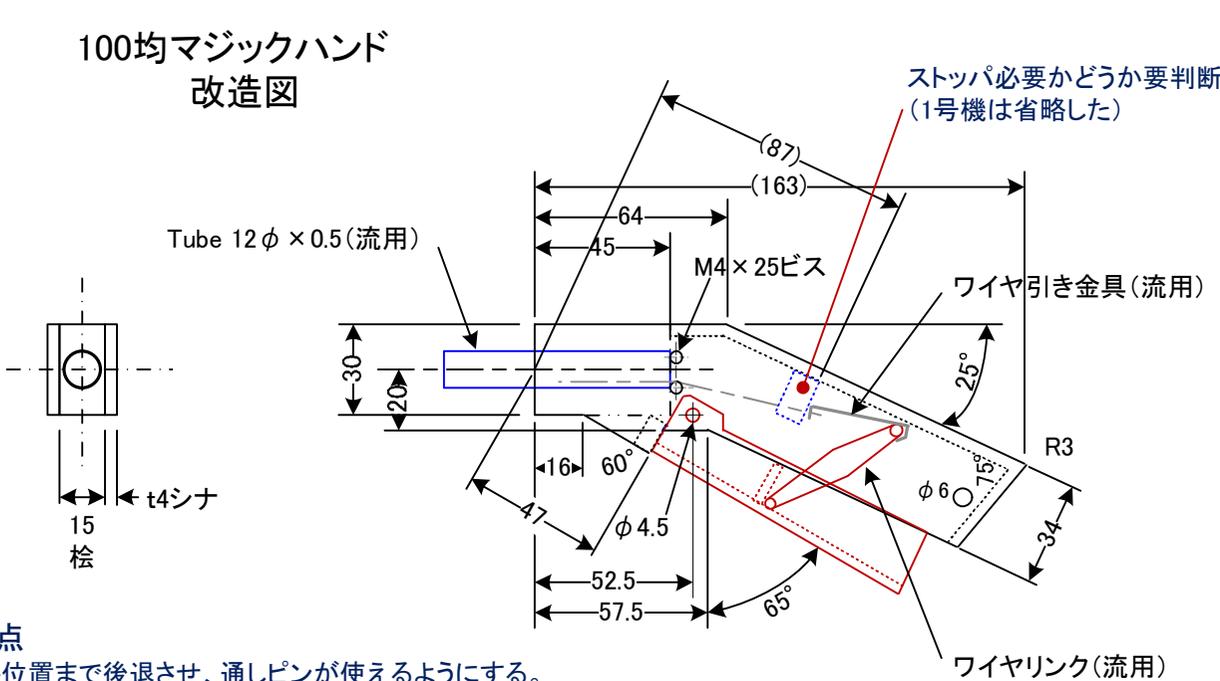


使いこなす間に引張ワイヤーが、この位置で樹脂ボディを削ることにより、ワイヤーのテンションが下がり、結果、先端爪の閉じる力が弱くなる。

このストッパーは、先端はさみ爪が無駄に大きく開きすぎるのを防ぐためのもの。(トリガーのベロにもこの機能があるが、ピンがガタついて緩くなってくると、ベロのストップ位置も狂ってくるので設けてあるようだ。)ベロのストップ構造が確実ならば、このストッパーは省ける。

トリガーの型出しピンが、エッジギリギリな上に、ワイヤーもギリギリなので、ワイヤー避けの為にピンの部分はスリットになっている。このスリットがある為トリガーをボディに嵌め込む時には嵌め易いが、ピンが折れたり摩耗すると修復は不可能な構造

100均マジックハンド 改造図



改造留意点

- ・ピンを余裕位置まで後退させ、通しピンが使えるようにする。
- ・通しピンにガタを付けず、トリガーストッパを信頼できるようにする。
- ・チューブエンドにワイヤーガイド(M4×25ビス)を設け、ワイヤーの動きに伴う見かけ緩みを防止する。

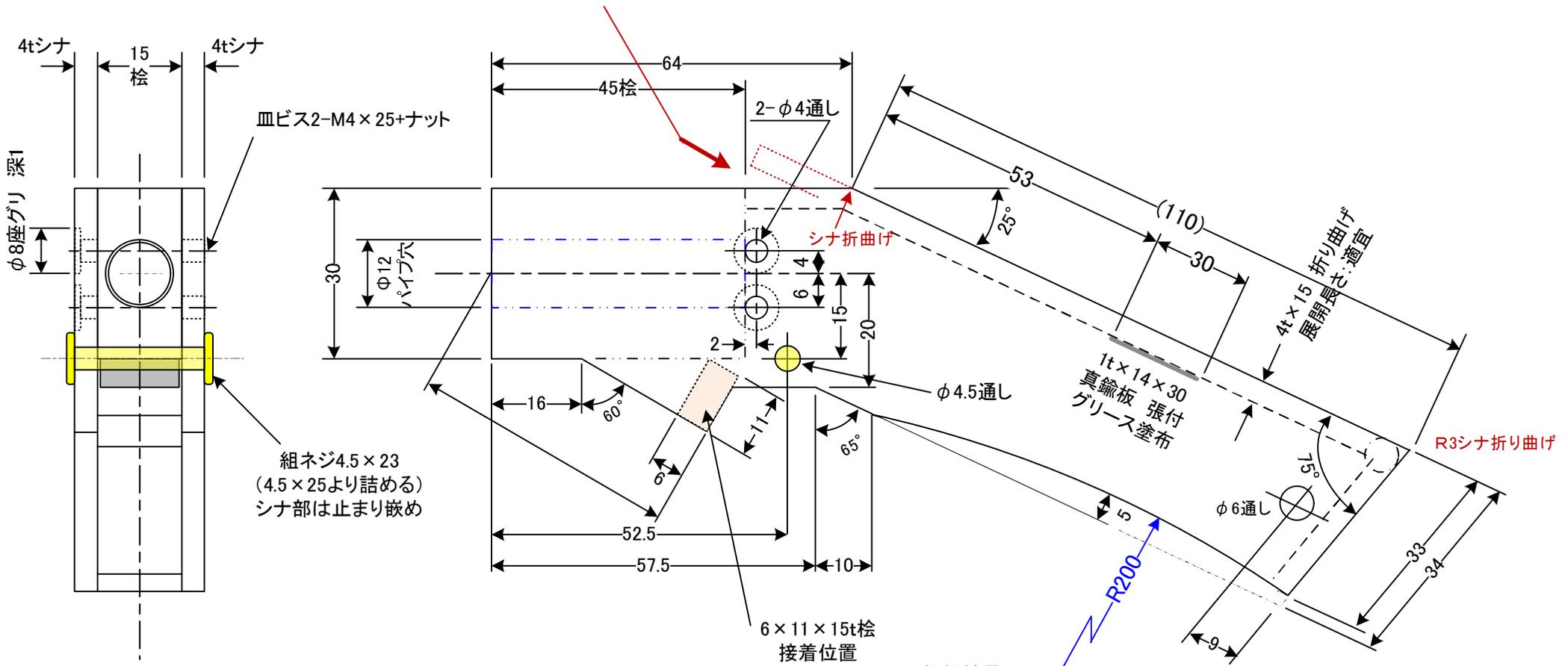
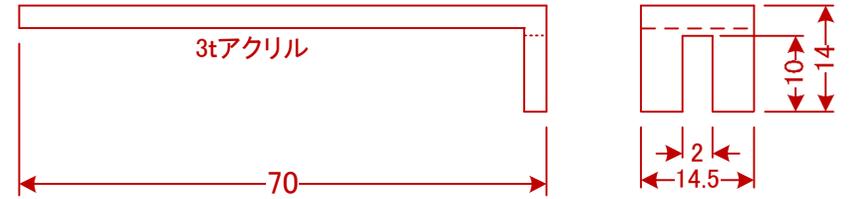
トリガー: アクリル白 3t

グリップ本体図

ここから右の治具を差し込み、先端爪の開き具合を確認後にグリップと共に接着のこと。
 流用する機材によっては、ワイヤストッパをグリップ内に取り付けた方が、先端爪が開き過ぎず都合がいい場合がある。(100均品はそうなっている)

製作結果、心配無用だった。

製作治具： グリップ内にワイヤストッパが必要かどうか確認する為に使用する。 必要な場合の位置決めを利用。→未使用でOKだった。



仮組結果

- ① トリガーの引き代に不足感があったので、グリップを200Rでカットした為、トリガーを完全に閉じた時に本体との間にスキが出来るようになった。∴次回トリガーを作る時は、高さを5ミリ増した図で作成のこと。
- ② パイプ差し込みストッパーのM4×25ビスは、M3で十分だった。更に沈め板ナットだと出っ張りが目立たなくてベストだったかも。

